

平成29年度 「大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会」

— よりよい男女共同参画を目指して —

## 日本内科学会の取り組み



日本内科学会 男女共同参画WG代表

埼玉医科大学総合医療センター消化器・肝臓内科

名越 澄子

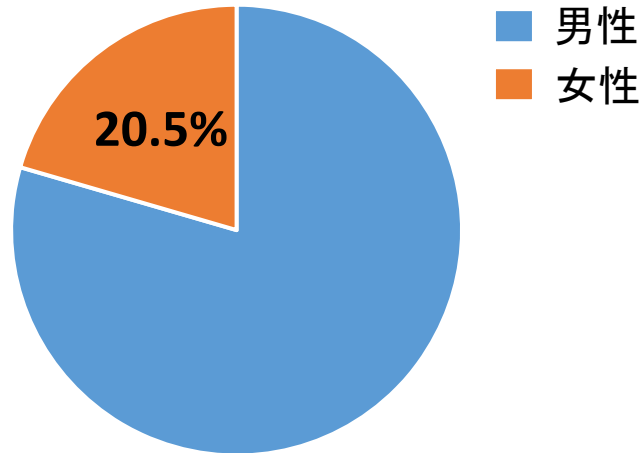
2017.9.29

# 日本内科学会における女性の割合

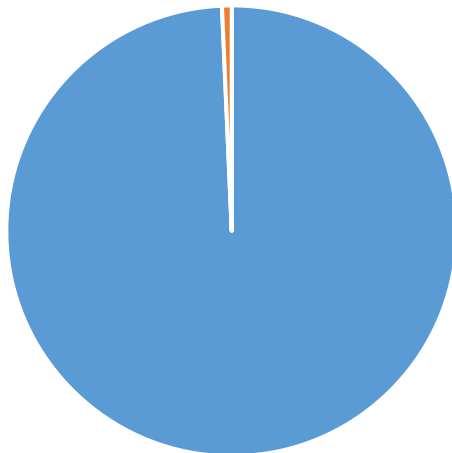
2013年2月全会員(104,485名)

すべて女性は0名

理事(23名)  
委員会委員(100名)  
2013年度講演会司会・座長  
(113名)



2012年度評議員(440名)



日本内科学会専門医部会女性医師に関するWG

(2008年~2013年)

「女性内科医が生き生きとワーク・ライフ・バランスを  
保ちながら仕事を続け社会に貢献するための提言」(案)

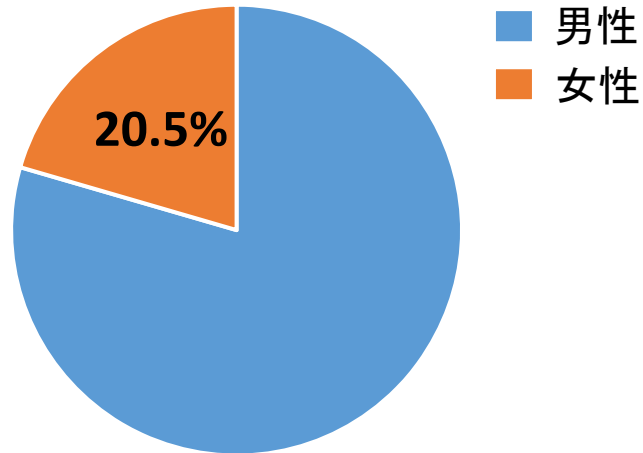
(2012年公表)

# 日本内科学会における女性の割合

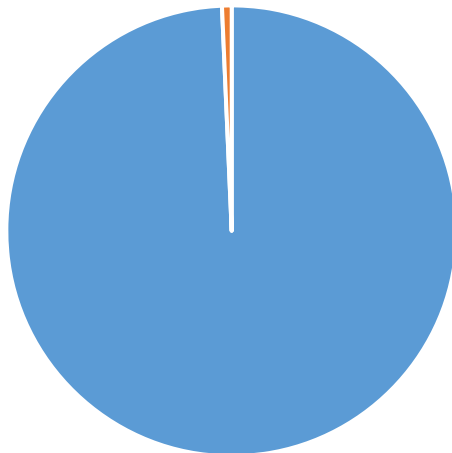
2013年2月全会員(104,485名)

すべて女性は0名

理事(23名)  
委員会委員(100名)  
2013年度講演会司会・座長  
(113名)



2012年度評議員(440名)



2012年

理事長 → 支部代表

「支部所属の会員からの評議員候補者推薦依頼の件」

うち1名以上女性会員のご推薦をお願いいたします。

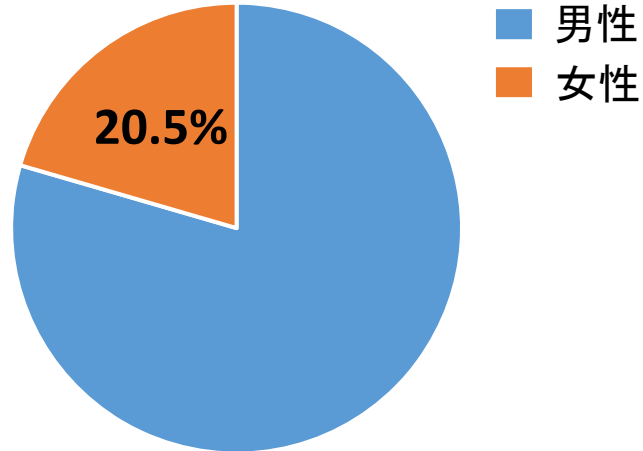
(2013年度より支部推薦制度を導入)

# 日本内科学会における女性の割合

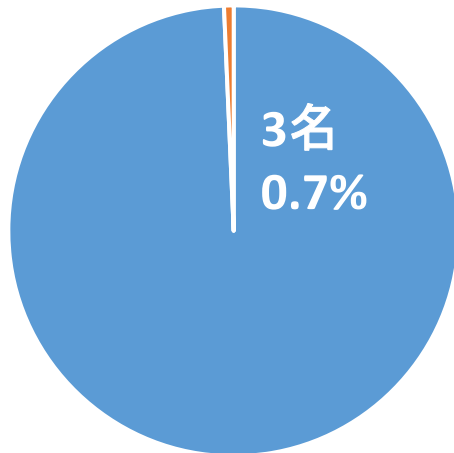
すべて女性は0名

2013年2月全会員(104,485名)

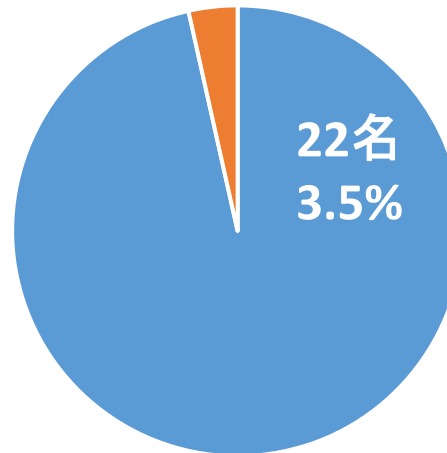
理事(23名)  
委員会委員(100名)  
2013年度講演会司会・座長  
(113名)



2012年度評議員(440名)



2013年度評議員(628名)



# 日本内科学会 学会在り方検討委員会 将来計画検討WG

## 男女共同参画グループ

2012年11月発足

1. 女性評議員の増員
  - 各支部から少なくとも1名を女性に
  - 大学女性教授を理事長推薦
2. 各委員会に女性委員を少なくとも1名
3. 年次講演会に要望
  - 座長、講演者に女性の積極登用
  - 男女共同参画シンポジウム開催
4. 新・内科専門医制度研修における育児・介護等に関する特別措置の要望

# 日本内科学会 学会在り方検討委員会 将来計画検討WG

## 男女共同参画グループ

2012年11月発足

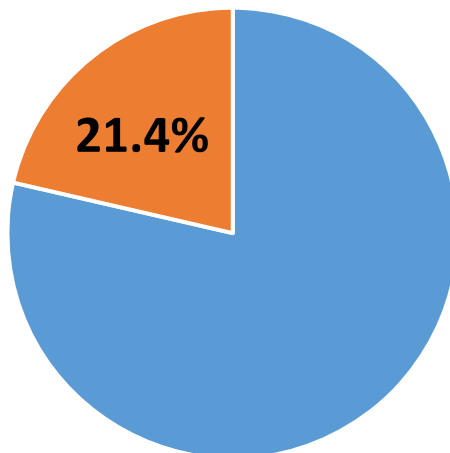
1. 女性評議員の増員
  - 各支部から少なくとも1名を女性に
  - 大学女性教授を理事長推薦
2. 各委員会に女性委員を少なくとも1名
3. 年次講演会に要望
  - 座長、講演者に女性の積極登用
  - 男女共同参画シンポジウム開催
4. 新・内科専門医制度研修における育児・介護等に関する特別措置の要望

# 日本内科学会における女性の割合

2013年2月全会員(104,485名)

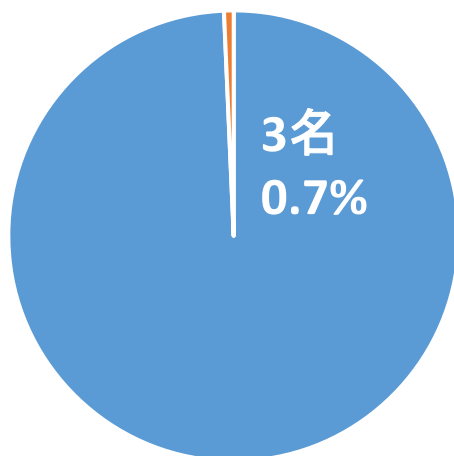
すべて女性は0名

理事(23名)  
委員会委員(100名)  
2013年度講演会司会・座長  
(113名)

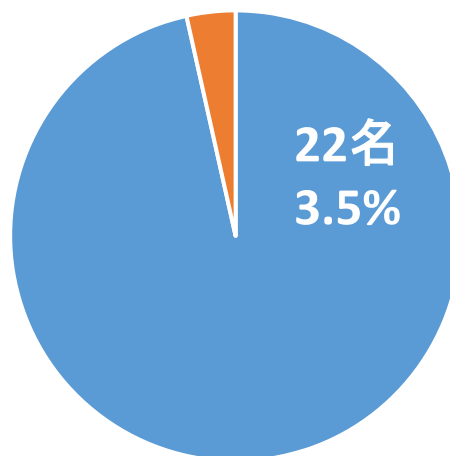


理事(23名):女性0名  
7委員会:女性各1名  
2016年度講演会  
講演演者(32名):女性2名  
一般演題座長(89名):女性8名

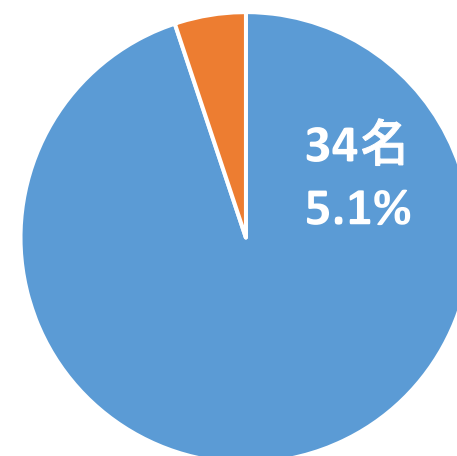
2012年度評議員(440名)



2013年度評議員(628名)



2016年度評議員(666名)

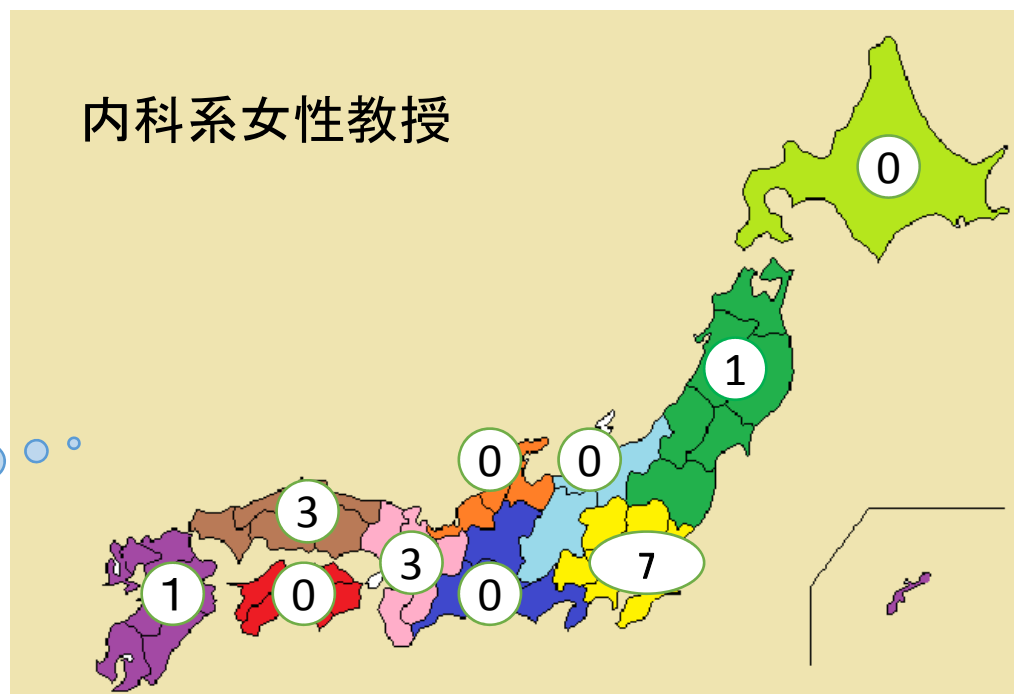


# 日本内科学会における評議員候補者推薦

## 2017年度は「常勤の内科系女性教授」も推薦

女性教授が  
少ない

特任教授、  
病院教授が多い

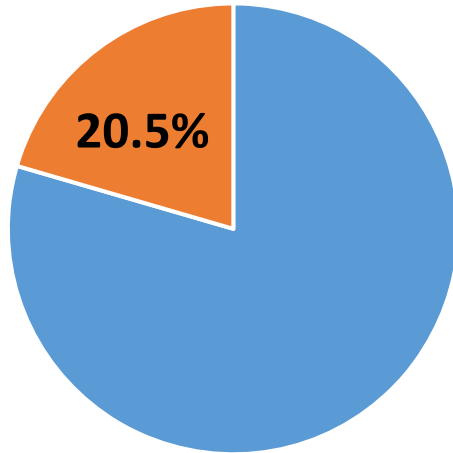


2016年度アンケート結果

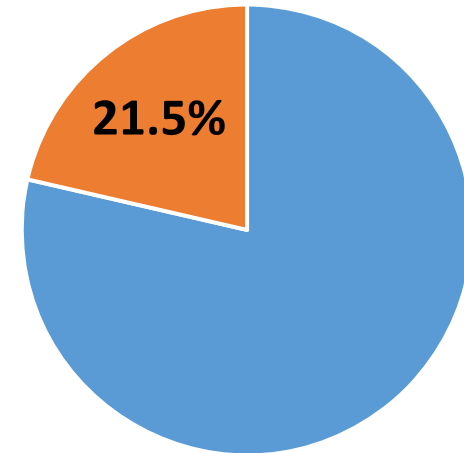


# 日本内科学会における女性の割合

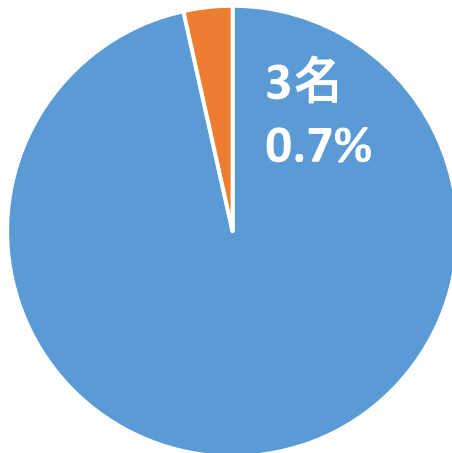
2013年2月全会員(104,485名)



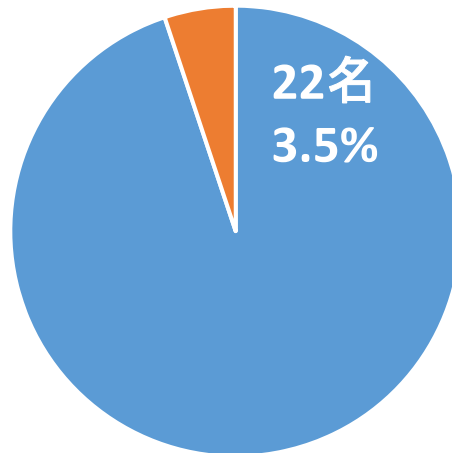
2017年2月全会員(110,113名)



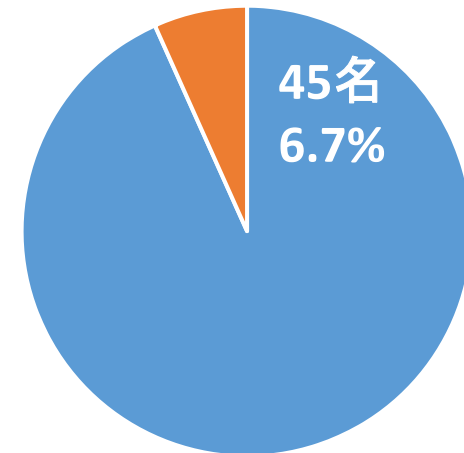
2013年度評議員(628名)



2016年度評議員(666名)



2017年度評議員(671名)



# 日本内科学会 学会在り方検討委員会 将来計画検討WG

## 男女共同参画グループ

1. 女性評議員の増員
  - 各支部から少なくとも1名を女性に
  - 大学女性教授を理事長推薦
2. 各委員会に女性委員を少なくとも1名
3. 年次講演会に要望
  - 座長、講演者に女性の積極登用
  - **男女共同参画シンポジウム開催**
4. 新・内科専門医制度研修における育児・介護等に関する特別措置の要望

第111回 日本内科学会総会・講演会

— 男女共同参画企画 —

# 公開シンポジウム

— 生き活きと確かな成長両輪で —



〈第一部〉基調講演  
黒田 玲子 (東京理科大学)

〈第二部〉パネルディスカッション  
「女性も男性も輝く社会をめざし」

瀧美 由喜 (厚生労働省 政策評価に関する有識者会議委員 (兼) 独立行政法人地域医療機能推進機構JCHO 久留米院)  
田中 真紀 (宮城県医師会常任理事 日本医師会女性医師支援センター 会長)  
高橋 克子 (金沢医科大学)  
梶波 康二 (金沢医科大学)

【座長】名越 澄子 (埼玉医科大学総合医療センター) 大塚 洋子 (金沢医科大学)

日時 平成26年4月13日(日) 13:00~15:00  
会場 東京国際フォーラム ホールC

第112回 日本内科学会総会・講演会

# 男女共同参画企画 公開シンポジウム

— やりがいのある未来を拓くチャレンジとは? —



座長 市村 三子  
演者 大名 清村 三子

日時 2015 4.12 日  
13:00~15:00 (受付開始12:30)

会場 東京国際フォーラム ホールC

会長 三嶋理晃 (京都大学)  
後援 内閣府 男女共同参画局

第113回 日本内科学会総会・講演会

— 男女共同参画企画 —

# 公開シンポジウム

## プログラム

今のあなた  
輝いています



日時 2016. 4. 17 日 9:30~11:30  
会場 東京国際フォーラム ホールB5  
会長 門脇 孝 (東京大学)

主催 一般社団法人 日本内科学会  
後援 内閣府 男女共同参画局

第114回 日本内科学会総会・講演会

# 男女共同参画企画 公開シンポジウム

— 未来に挑戦しつづける心 —



日時 2017年 4月16日(日) 10:30~12:30  
会場 東京国際フォーラム ホールB5  
会長 小池 和彦 (東京大学)

主催 一般社団法人 日本内科学会  
後援 内閣府 男女共同参画局

日本内科学会総会・講演会

# 男女共同参画企画

# 日本内科学会 学会在り方検討委員会 将来計画検討WG

## 男女共同参画グループ

1. 女性評議員の増員
  - 各支部から少なくとも1名を女性に
  - 大学女性教授を理事長推薦
2. 各委員会に女性委員を少なくとも1名
3. 年次講演会に要望
  - 座長、講演者に女性の積極登用
  - 男女共同参画シンポジウム開催
4. **新・内科専門医制度研修における育児・介護等に関する特別措置の要望**

日本内科学会 認定医制度審議会

会長 渡辺 毅 殿

将来計画検討ワーキンググループ

男女共同参画グループ

代表 名越 澄子

## 要望書

### 新・内科専門医制度 後期臨床研修における育児・介護等に対する 特別措置について

日本内科学会における女性会員の活動支援につきましては、かねてよりご理解賜り厚く御礼申し上げます。

新・内科専門医制度では、認定試験受験資格として、2年の初期臨床研修を含む5年の内科研修が必要とされます。さらに内科系サブスペシャリティ専門医を取得するには、新・内科専門医を取得していることが条件となります。一方、2013年度の日本内科学会新規入会者に占める女性の割合は28%であることから、日本内科学会および内科系13学会の今後の発展に女性医師の活躍が不可欠と考えられます。

しかし、新・内科専門医および内科系サブスペシャリティ専門医の取得時期は出産・育児に関わる時期と重なる場合が多く、より高いレベルの研修が求められる新・内科専門医制度への移行に伴い、内科医としてキャリアの向上を目指すことに不安を抱き、内科医を断念する女性が増える可能性があります。

また、育児・介護・病気等のために男女を問わず、後期臨床研修中にフルタイムで就労できなくなる場合や、所属する専門診療科の体制によりフルタイムの勤務は可能でも入院患者の受け持ちは困難となる場合があります。

新・内科専門医制度では、このような医師がより良い「内科医」となるモチベーションを維持し、研修レベルを保ちつつ、新・内科専門医取得をめざせるように配慮する必要があると考えます。

つきましては、新・内科専門医制度における認定試験受験資格の決定に当たり、以下の事項を特別措置としてご検討いただきますようお願い申し上げます。

## 男女共同参画グループからの要望事項

1. 以下の特別措置は、育児・介護等の理由を研修登録時、または研修中にその理由が発生次第、申請することとする。

2. 今後、新・内科専門医制度の認定試験受験資格として後期臨床研修の入院患者受け持ち年数を規定する場合、

2年の入院患者受け持ちは必須とし、残りの年数は入院患者を受け持たない年数に1/2を掛けて入院患者受け持ち年数とすることができる。

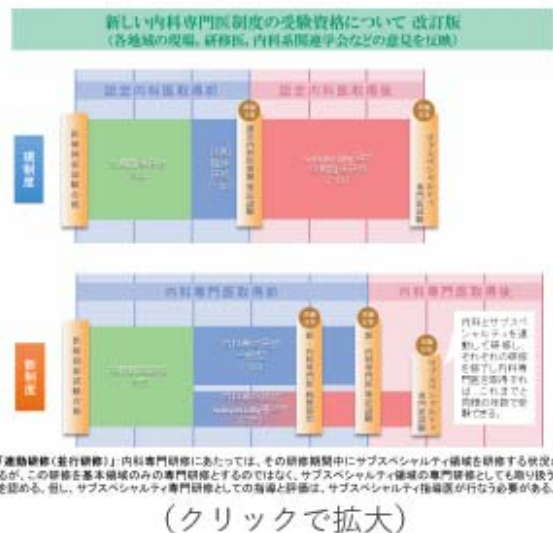
3. 原則として、週4日以上勤務を後期臨床研修として認める。ただし、グループ診療、ワークシェアリング等で週3日の勤務の場合は、その勤務年数に3/4を掛けて研修年数を計算する。

## 妊娠・出産・育児・傷病・介護などによる休職期間の取り扱いについて

### 【背景】

研修歴における妊娠・出産・育児・傷病・介護などによる休職期間の取り扱いが現行制度の中で明確に位置付けられていなかったため、今までは休職した期間を補完した上で受験資格を付与していた。特に女性医師が受験を希望する場合に検討となるケースが多く、本会の「男女共同参画ワーキンググループ」からも受験資格において研修期間中の育児・介護等に対する休職への特別措置を検討するよう申し入れがあった。一方初期臨床研修においては、医政局通知からも2年間の研修期間において最大90日の妊娠・出産・育児・傷病などにおいては休職（中断）が許容されている。また新専門医制度においても一般社団法人日本専門医機構より見解が提示され、「疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしていれば、休職期間が6か月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとする」とされている。こうした状況をふまえ妊娠・出産・育児・傷病・介護などによる休職期間における研修年限について、このような措置をとる。

1. 現制度において妊娠・出産・育児・傷病・介護などにあたっては、1年間につき最大1.5か月（45日間）の休職期間を研修期間として許容する。但し受験にあたっては、他の要件を終了している必要がある。
2. 受験申込みの際は受験者本人からの自己申告のみでなく、教育責任者の自署・捺印を必要とする申請書（別紙）の添付を求める。
3. 新制度においては妊娠・出産・育児・傷病・介護などについて、研修期間中（3年間の研修につき）最大6か月の休職期間を研修期間として許容する。受験にあたっては、他の要件を修了している必要がある。



## 2. 研修期間の取扱いについて

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラムの修了要件を満たし、休職期間が6か月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとする。（従来の基準：4か月→新基準：6か月）

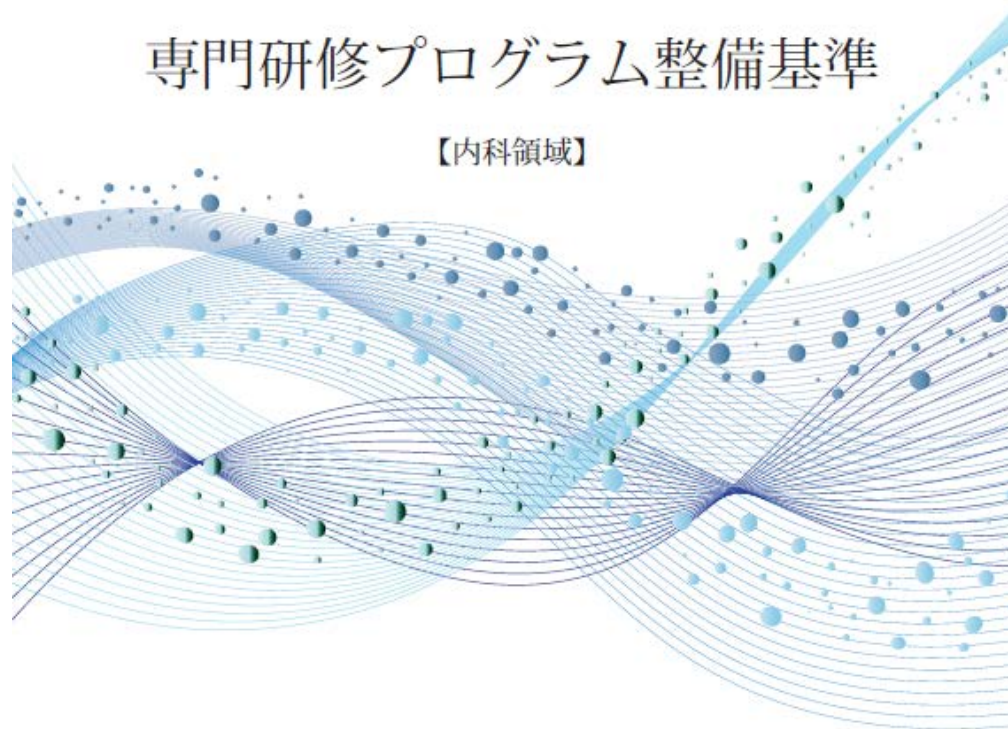
## 3. プログラムの定員について

医師の偏在を助長させないためにプログラムの定員については、教育資源（指導医および症例数）だけではなく、従来実績（過去3年間の研修医の採用実績）も踏まえて定員を設定する。特に都市部に相当する地域（東京、神奈川、愛知、京都、大阪、福岡）では、実績の1.29倍まで定員調整を行ったが、引き続き、より抑制的な調整を行なう方向性であることにご理解をいただき、プログラムの申請においても、予めこのことを念頭に置いていただきたい。



# 専門研修プログラム整備基準

【内科領域】



一般社団法人日本内科学会

### ⑪ 専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

やむを得ない事情により内科領域内でのプログラムの移動が必要になった場合、日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を活用することにより、これまでの研修内容が可視化され、移動する新しいプログラムにおいても、移動後に必要とされる研修内容が明確になる。これに基づき、移動前のプログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を可能とする。他の領域から内科領域での専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめめる場合、あるいは初期臨床研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている

---

場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらにプログラムの統括責任者が認めた場合に限り、日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）への登録を認める。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会が行う。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしていれば、休職期間が6か月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとする。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要である。

短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算(1日8時間、週5日を基本単位とする)を行なうことによつて、研修実績に加算される。

留学期間は、原則として研修期間として認めない。

# 2017年度の新たな取り組み

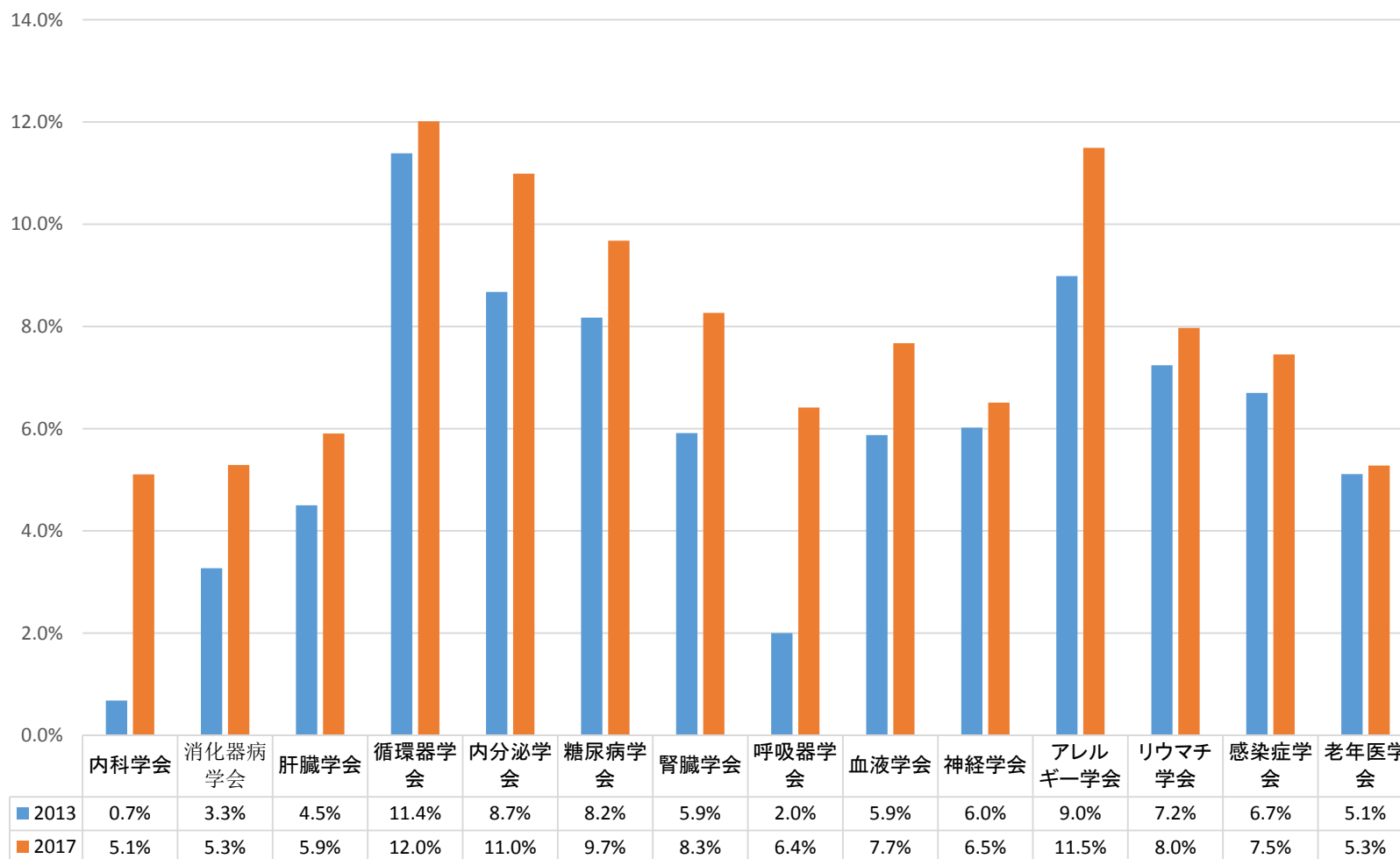
## 内科系学会の男女共同参画に関する連絡協議会

日本内科学会、日本消化器病学会、日本肝臓学会、日本循環器学会  
日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本腎臓学会、日本呼吸器学会  
日本血液学会、日本神経学会、日本アレルギー学会、日本リウマチ学会  
日本感染症学会、日本老年医学会

2013年と2017年に行った各学会の男女共同参画に関するアンケート調査結果を基に  
各学会での取り組みや共通の課題について意見交換

(第1回2017年4月15日開催)

## 14学会における女性評議員の割合(2013年/2017年)



## 14学会における女性理事数(2013年/2017年)

|       |       | 内科学会 | 消化器病学会 | 肝臓学会 | 循環器学会 | 内分泌学会 | 糖尿病学会 | 腎臓学会 | 呼吸器学会 | 血液学会 | 神経学会 | アレルギー学会 | リウマチ学会 | 感染症学会 | 老年医学学会 |
|-------|-------|------|--------|------|-------|-------|-------|------|-------|------|------|---------|--------|-------|--------|
| 女性理事数 | 2013年 | 0    | 1      | 0    | 2     | 1     | 0     | 1    | 0     | 1    | 0    | 0       | 0      | 0     | 0      |
|       | 2017年 | 0    | 2      | 1    | 1     | 1     | 1     | 2    | 0     | 1    | 1    | 0       | 1      | 0     | 0      |
| 全理事数  | 2013年 | 19   | 20     | 16   | 30    | 20    | 18    | 20   | 30    | 25   | 20   | 20      | 19     | 15    | 20     |
|       | 2017年 | 19   | 20     | 16   | 30    | 20    | 18    | 20   | 33    | 25   | 20   | 20      | 19     | 18    | 20     |

(人数)

## 14学会の委員会委員と司会・座長における女性の割合(2017年)

|       |                 | 内科学会      | 消化器病学会    | 肝臓学会       | 循環器学会      | 内分泌学会      | 糖尿病学会       | 腎臓学会       | 呼吸器学会     | 血液学会      | 神経学会       | アレルギー学会    | リウマチ学会     | 感染症学会     | 老年医学学会     |
|-------|-----------------|-----------|-----------|------------|------------|------------|-------------|------------|-----------|-----------|------------|------------|------------|-----------|------------|
| 委員会委員 | 女性<br>人数<br>(%) | 8<br>(5)  | 11<br>(3) | 12<br>(11) | 32<br>(10) | 67<br>(17) | 31<br>(8)   | 81<br>(13) | 21<br>(6) | 12<br>(8) | 29<br>(6)  | 11<br>(10) | 22<br>(10) | 3<br>(1)  | 11<br>(8)  |
|       | 総数              | 167       | 322       | 112        | 320        | 391        | 384         | 644        | 343       | 149       | 506        | 111        | 231        | 226       | 135        |
| 司会・座長 | 女性<br>人数<br>(%) | 10<br>(8) | 11<br>(4) | 11<br>(7)  | 64<br>(13) | 54<br>(20) | 115<br>(18) | 23<br>(12) | 57<br>(9) | 21<br>(6) | 12<br>(10) | 9<br>(8)   | 21<br>(11) | 13<br>(6) | 13<br>(10) |
|       | 総数              | 124       | 303       | 150        | 501        | 265        | 649         | 191        | 661       | 340       | 118        | 114        | 197        | 231       | 131        |

日本内科学会 学会在り方検討委員会 将来計画検討WG  
男女共同参画グループ

# 日本内科学会 学会在り方検討委員会 男女共同参画WG

歴代理事長 寺本民夫(2009年～2013年)  
小池和彦(2013年～2016年)  
門脇 孝(2016年～)

## 男女共同参画WG



梶波康二 (金沢医科大学循環器内科)(～2017年)  
西川典子 (愛媛大学病態治療内科学)  
檜山桂子 (福原医院)  
別役智子 (慶應義塾大学呼吸器内科)  
正木崇生 (広島大学腎臓内科)  
村島温子 (国立成育医療センター母性医療診療部)  
山内高弘 (福井大学 血液・腫瘍内科)  
名越澄子 (埼玉医科大学総合医療センター)